

環境保全と再資源化への提言誌

# 月刊廃棄物

Monthly the Waste Vol.42 No.544

since 1975

2016  
July  
7

■特集

## 熊本地震における 災害廃棄物の処理体制

■特別寄稿 ダイコー事件と排出者責任 — CoCo壱番屋は被害者か？

■特別寄稿 ごみ処理施設建設におけるNIMBY問題の現状と課題

■連載 自治体実務に生かす通知とそのポイント



連載

私はもともと一般廃棄物の収集運搬・処分を手掛ける許可業者の会社に在籍し、営業として勤務していた。当時、家庭から排出される粗大ごみや不用品の回収と合わせて、家の中からの運び出しなど、市では対応しきれない部分を含めたサービスを新規事業として始めることになった。個人宅に上がって業務を行うには、女性のほうが住民も抵抗がないだろうということもあって、この業務に携わり、私自身も使命感をもってや

## 遺品整理 実務 スタディ

アメイジー(株) 代表

古川めぐみ Kogawa Megumi



vol. 27 古川めぐみ・その1 女性目線で考える

らせていただいた。依頼を受けた訪問先には、高齢者が孤独死をされたお宅や、ごみを溜め込んでしまった、いわゆる「ごみ屋敷」も多く、「家族が亡くなったので」と遺族から頼まれて、その家に入って見たら、山ほど積まれたごみが出てきたこともある。職業は関係なく、故人が一流企業の方であつても、住居はごみ屋敷ということも珍しくなかった。

あるいは20代で1人暮らしを始めた人が、ごみ屋敷にしてしまつて、夜逃げをした後の部屋の片付けを、不動産業者から依頼されたこともあつた。高齢者のお宅では、生前に古紙として出そうとして結束した新聞の束が、表の階段まで運び出すことができないまま、家中に置かれていたこともあつた。

に気づいたりもした。そこで、私自身がまず部屋の片付け・収納や遺品整理についてもっと知らなければいけないと考え、関連のセミナーをできる限り受講したり、住空間収納プランナーや遺品整理士などの民間資格も取得した。

### もっと細やかな仕事を

この仕事に携わるようになって強く思うのは、1つには、お片づけができないお宅の隅々とした暮らしと、ものに溢れた空間に対して、何とかしてあげたい、捨てることは重要な行為なのだ、ということである。同時に、片付けや整理を依頼された業者が、全てをまとめて捨ててしまうことには違和感を覚えた。

金や指輪が出てきたという話も聞いた。また、遺品整理の仕事で、高齢者が孤独死をされたような現場を訪れたときに、「汚い」「気持ち悪い」とか、仏壇を片づけるときに「罰が当たる」「たたりにあつたらどうしよう」などと漏らすスタッフがいて、その場の雰囲気は気まぐしくなつてしまふこともあつた。本来なら、仏壇や位牌などの処分は遺族が困つていれば、業者側がしかるべき処分方法を提示し、処分先を手配してあげなければいけないはずなのに。

女性目線だからこそできる、もっと細やかなお片づけや遺品整理のやり方があるのではないか。そんな思いで昨年立ち上げたのが、「アメイジー」という会社である。W

●執筆者プロフィール●  
古川めぐみ | Kogawa Megumi

遺品整理・生前整理・終活整理をサポートするサービスを手掛けるアメイジー(株)代表取締役。遺品整理アドバイザー。整理収納アドバイザー。古物商。なるべく捨てたくない、使って欲しい、どう片づけてよいかわからないなど、困りごとの各種手配を行う。できるだけリユースをすることで捨てる量を減らし、捨てられるものを次の世代に引き継ぐ。高齢者の終活整理やお片付けもサポートし、女性目線で安心して頼めるサービスの提供を心がける。